

2級実技試験「論述」の対策 前章

- 論述は、問題を読み解く力、問題・目標把握、方策の展開力が問われる
- 60分だが配分は: 回答を考える(20分)、記述(30分)、見直し(10分)
- 実際に鉛筆で回答(書く)練習も必要。文字収まるかや手の疲れも大きい
- 一度書いたら、大きくは書き直さないこと。見直しでは微調整と誤字脱字
- 論述の回答には「形」= 実践的なロジックが大事。
- 無理に意味も薄く「キャリア理論」や「キャリア用語」を書くことは逆効果



「問1の回答方法」

問1: 相談者がこの面談で相談したい問題は何か記述せよ。

- 「相談したい問題」とは相談者が面談に来た時に思っていた問題のこと
- これは、相談者がCCの質問や展開以前に抱えていた問題のこと
- 主に初めの部分に書かれているが、後半に分散していることもある。
- 3行(100~120文字)に要約して書く。極力、逐語の言葉をそのまま使う。
- 相談者の一番相談したい言葉を回答の最後にはっきりと書く



「問2の回答方法」

問2: キャリアコンサルタントとしてあなたが考える、相談者の「問題」は何か

- 問1の問題は**問題1**、問2の問題は**問題2**と完全に別の問題である
 - 問題2は、問題1の原因になると考えられる問題。別の言い方をするとこの**問題2(原因)**を解決することが**問題1の解決**につながる。
-
- **問題2**は相談者が気が付いていないで、CCが気付いた(考える)問題
気付くとは、「何かおかしい」と感じる部分。

続く...



問2: キャリアコンサルタントとしてあなたが考える、相談者の「問題」は何か

● CCが気付く相談者の問題とはどんなことがあるか？

- 1) 相談者の誤った思い込み、イラショナルビリーフ等
- 2) 必要な知識、情報不足。知るべきことを知らなさ過ぎる
- 3) とるべき必要な行動が行われていない
- 4) ネガティブ思考(マイナス面ばかりに囚われる)が強すぎる
- 5) 理解不足(自己理解、仕事理解、環境(職場、雇用)理解など) 等

● 通常、逐語の中に**複数の問題2**と考えられるものがある。

● 回答は、多くても3つの問題2に着目して重要と考える順で記述する 続く……



問2: キャリアコンサルタントとしてあなたが考える、相談者の「問題」は何か

- 回答の記述方法。回答用紙は3行なので100字～130文字が妥当。

例 130文字:

3つの問題があると考える。 1) ……(逐語から引用)……から、上司はどんな時でも部下に理解があるべきだとの「誤った信念」を持つ。 2) ……(逐語から引用)……から、仕事理解不足がある。 3) 必要以上に心配が先立ち、上司に相談出来ていない。

- 上記以外に、1つの問題に着目して3行を使って書く方法もあるが、1つに絞ることがリスクがある(着目が外れた場合)。また3行を効果的な文章で書く難しさもある。この点に自信があれば、この方法もあるが難しい。
- 複数の問題を上記の様に箇条書きで書かないと、何を言いたいのかが分からない文章になるので、それは避けるべき。



「問3の回答方法」①

問3:あなたは。上記の2つの「問題」を合わせ、相談者を援助する為に、①どこに目標をおいて、②どういふことを実施したいか、あなたの具体的な方策を記述せよ。

- 2つの「問題」を合わせ、とは？

問題1を解決する為に問題2をまず解決することを目標に置くということ。

- ①の回答用紙は3行なので100字～130文字が妥当

下記は回答例(基本形) 129文字

- 「上司の理解がなく、やる気にならず仕事が面白くない」とのCLの問題を解決し援助する為に、CCが考える問題である、相談者の「上司は常に部下を理解すべきだ」との「誤った信念」に気づかせ考え直すことを目標1として、その上で最終的に相談者の問題を解決することを目標2に置く。



「問3の回答方法」②

問3: ② どういうことを実施したいか、あなたの具体的な方策を記述せよ。

- 当然、①で設定した目標1を達成する為の具体的方策を書く
- 「あなたの具体的」を問われている。一般的、抽象的、理論の押しつけはNG
- ②の回答用紙は6行なので1行40文字程度が妥当

- 具体策を進めるステップ(項目)順に書くと分かりやすく、整理される
記述例、初めの行で次のように書くとよい。

「具体的な方策を次の順で進めて行く。」 1)…………… 2)……………
3)…………… 4)……………

